本會編纂の神道書籍目錄

大橋圖書館長　坪谷水哉

我が國の古今神道書の目錄が、今回加藤玄智博士を所長に戴く財團法人明治聖德記念學會の研究所から、最近學界に公にされたと云ふことを聞いて、何には兎もあれ、それが書籍の目錄だと云ふことなので、職を一圖書館の長に承けてをる自分としては、自分の專門とは非常に懸け離れてはをるが、一應目を通してをく必要があると思つて、本書を繙いた。元來自分達の樣な神道學の門外漢の考では、神道書と云つた所で、古事記、日本書紀、それに何冊かの神道書を加へた所で、さう澤山なものではあるまい、それなら神道書籍目錄と云つても、高が知れたものだと、さう云ふ大雜派な考でゐたところ、先づ本書を手にして驚いたことは、四六倍判約七〇〇頁、一面に神道書籍名の列擧で埋つて、厖然たる大冊を成してをると云ふ事實である。則ちその輯むる所の神道書目は一萬三千部に上つてをる。さうして、それが日本の上古から明治元年迄である。

若し之れに目下財團法人明治聖德記念學會の研究所で、第二期事業として神道書籍目錄の續編に取り

かゝつてをられる明治、大正、昭和の今日に至る神道書目を附け加へれば、優に又四六倍判七、八百頁更に一萬數千部の多きに及ぶであらうと豫測される。是れ蓋し明治以後に於ては、出版の便が遽然高まつた爲め、刊行される神道書籍も實に汗牛充棟も啻ならざる盛況下にあるからである。如何に古今神道書籍の多數なることよ!! これでこそ著書の上から考へても、神國日本の名に全くふさはしいと思つた。

神道書と云へば、單に古事記、日本書紀位の事しか頭に浮んで來ない我等素人は、先づ此點丈でも、本書に於て大に敎へられる所があると思ふ。

佛敎の一切經、儒敎の四庫全書、浩瀚は固より浩瀚であるに相違ないが、神道も亦其の聖典が無いどころでは無く、上古から明治初年迄でも、一萬三千部の神道書が存してをると云ふ事實を知るに至つては、日本人たるもの大に人意を强くすべきである。爰にも亦日本人はその固有の日本精神に自覺一番せねばならぬと云ふ自己反省を深められる次第である。

惟ふに輓近外人の神道研究熱が次第に高まつて來た時に當り、彼等外人が、若し我等日本人に問ふに、己は神道を研究したいが、一體その文獻はどこに在り、その量はどの位あるものであるかと云ふことを以てしても、我等日本人は、之れからは、先づ卽座に答辯することの出來る好い資料を握り得たことを喜ぶ。それは外でもない、本書一卷を擧げて、以て彼等の目の前に推し附け、さう云ふ神道の研究

文獻はヘイこれですと、本書一卷を示してやれば可い、それで問題は萬事解決なのである。何んと本書に由つて、從來は困らされた問題解決の簡單なることよ!!

實に本書は内外人の日本文化研究上、神道文獻を取り扱ふに當つて、斯る役割を演ずるものである。本書編者は又夙に此の用意があるので、本書籍目錄掲出の一切の書名、その編著者名等には、一々羅馬字を附し、本名は先づ ABC 順に配列して以て這種研究家の需要を充たすことに努めてある。其用意や實に周到であると云へる。然し ABC 順よりも、アイウエオ順の方が、矢張日本人には引くのに便利だ、それに何ぜ本書は ABC 順を取つたのか、などと難詰する人も出るかも知れないが、それには本書の編者はチャンと先き廻りをして、ABC 順の書名配列と併せて、アイウエオ順の配列索引も附けてをる。爰にも亦編者の用意の周到であることが窺はれる。かうなれば我等日本人の素人にも、本書が十分能く役に立つと云ふことが首肯されるであらう。

而もこれのみで無い。本書編者の用意綿密なる、實に本書に收められた書籍中その編者名の判然してをるのは、別に又編者名一覽を作つて卷尾に附してある。然れば本書は、又此點から云つて、神道家の一人名辭典とも云ひ得可き特質を附加されて來てをる。而て更に神道研究家に便利だと思ふことには、この人名一覽の下に、各編著者の神道書目——それは一度は ABC 順で出されたもの——が列擧され

てをる。或は一編著者で、その神道書が一部なる場合もあり、或は數部、或は十數部に上るものもある。仍て研究家は誰れ某には、何々の神道の編著があると云ふことが判かり、何某の神道學説を知る文獻としては、その人名下の神道書丈を繙けばその人の神道學説が判ると云ふ仕組みに本書が出來てをる。寔に内外兼用の神道研究上便利な書籍目錄であると云ふことが判かるであらう。唯慾を云へば此編著者名一覽中、その人名下の書目にも、矢張本文と對照の爲め、本文の頁數が擧げてあれば尙更よかつたと思ふ。之は老婆心の蜀望かも知れぬ。

本書籍目錄の配列を仔細に檢するに、それは單に雜然漫然、神道書の名目の列擧された所謂雜魚寢式の書籍目錄では無く、整然として、一糸亂れぬ統制があり、順序があり、次第があつて、そこに書物が彙類されて出されてをる。則ち本書所載の書目は、上古、中古、近古、近世の四大時期に分別されて配列され、而て最後の近世卽ち德川時代には、神道文獻が激增し、學者各學派の旗幟を分ち樹て、競つて神道説を上下したのであるから、近世丈は、その中を、更に、佛家神道、復古神道、伯家神道、伊勢神道、儒家神道、心學神道、宗派神道、垂加神道、土御門神道、吉田神道、雜家神道の十一學派別に小分して、その各學派に屬する神道書目を類別して擧げてある。故に例之、復古神道を研究しようとする人は、先づその項に記入されてをる神道書を漁ればそれで十分と云ふことになる。又佛教關係の神道を研

究しようとする者は、佛家神道の項全部の書物を繙けば事足ると云ふことになつてをるのである。歴史的に神道を研究しようとする者には、何と便利な研究上のガイド・ブックではないか。此點で我等素人も、本書に依つて神道研究の興味を多大に唆られるものである。

尚爰で一つ特筆しても好いと思ふことは、佛家神道に屬する神道文獻の事である。これは明治維新迄は、神佛混淆、又は兩部神道などと唱へて神佛の兩者が、極めて密接な關係に在つたものだから、一山の僧侶など、佛教關係者の神道に關する著述も、決して鮮くは無かつた。而も明治以後神佛分離の結果、這種佛家神道の書物は、神道家は勿論捨てゝ顧みないし、佛教家も亦自分の本當の領分でないぞと云つた顏をして居て、その稀書珍籍も、徒に高閣に束ねられて仕舞つて、年々唯蠹魚の餌食となるのみと云ふ有樣である。寔に慨すべき極である。今にして、その書名丈でも確つかり調べておかなければ、遂に皆湮滅に歸して、その跡形も無くなる惧がある。

そこで明治聖德記念學會の研究所は、每年或は高野山或は比叡山或は醍醐の三寶院或は日光の輪王寺と云ふ樣な佛寺に埋藏されてをる佛敎家の手に成つた神道書目を調査し、以て佛家神道の書目を本目錄中に蒐載する事が出來るに至つたといふことである。以て其の努力の並大抵で無いことが分る。

此の點から云へば、佛敎家も亦斯の神道書籍目錄を用ひて、神佛關係の史的事實を知るには、大に役

立つ所であるだらう。

以上は、私が多くの書籍目錄を取り扱ふ職務に在る圖書館長として、本書の機構に、神道研究上の一大便利を發見するに至つた結果、その讀後の所感を、本誌に公にし、以て本書を内外の讀書子に紹介する所以である。

實に本書は、その企圖が始められた時から、本年その完成を見る迄には、十有餘年の歳月を費し、本書編成の總監として、不斷の努力をつゞけて來られた加藤玄智博士の苦心は申す迄も無いことであるが、同博士を助けて本書の完璧を效した財團法人明治聖德記念學會の研究所の各員に、甚大の敬意を表する。殊に其中の一人で、既に鬼籍に入られた故法政大學敎授星野日子四郎君が、圖らずも余と同國の學究であつたことも本書を手にした自分にとつては、洵に感慨深き事柄の一つである。然し大局から見て十有餘年間、永い編輯日子の中、大震火災の厄も無く、その編輯に有終の美を收められたことは、何よりの事であつたと欣快に感ずる。加藤博士が本書の跋尾に附記して、本書完成の深い感想を、

この業にまがのすさびもなかりしは
神の御靈のふゆにぞありける

の三十一文字に遣られたのも眞にさぞかしと本書の完成に關して同博士の心情に共鳴する次第である。

仄聞する所に由れば、明治聖徳記念學會の研究所は、本書の上梓と共に、直に明治以後の神道書籍目錄のカード作成に邁進されてをるさうであるから、私は一日も早く明治以後の神道書籍目錄が、本書の繼續として世に公にされて、内外の斯道研究家に便せられるばかりでなく、目下その高揚の急需を迫られてをる日本精神顯彰の木鐸として、明治以後の神道書の新目錄が、世に公開されることを今日から鶴首翹望して已まない次第である。至囑々々

朝陽映島
金山の初日に光る佐渡ヶ島
十和田湖
夏の湖靜寂を破り鱒跳る
──水哉──

國學院大學の「哲學圖書目錄」成る

昨年「神道圖書目錄」を刊行して學界に寄與した國學院大學では今春新に「哲學圖書目錄」を完成し愈其の刊行を見るに至つた。四六倍判二段組一三〇頁より成り其の內容は哲學一般・哲學史・東洋哲學（經書、子類、儒家、術數）日本哲學・心理學・心理一般・心理學史・倫理學・倫理一般（詔勅、教訓）倫理學史・倫理史・論理學・論理學史・美學・美學一般・美學史等古今東西の哲學に亙り、所藏書目五千種に上るのである。就中國體・日本精神關係の圖書を多數網羅したることを以て最も特色とする。斯道に志す人々にとつての好參考であらう。

因に特別研究者に對しては特に實費を以て分讓する由である。東京澁谷同大學宛照合せられたい。（實費一部金壹圓、送料九錢、振替東京七七〇一番）